

期 昭和六十年九月二日～九月二十五日  
於 大学図書館二階展示ホール

錦絵

錦絵は、浮世絵の多色刷り木版画の総称であるが、元来の意味は、上方で流行した押絵（金襴などの小切れを張り交ぜて作った細工絵）である。しかし江戸で明和二年（一七六五）絵暦の流行を契機として多色摺版画が作られるようになり、それが、上方の錦絵のように美しく作られたので、東錦絵と呼ばれた。その後、「東」が、いつのまにか省略され、錦絵と呼ばれるようになったのである。

(1)

源氏合筆四季 嵐山  
歌川豊国（三世）・安藤広重（二世）画  
錦絵版画 三枚続（内一枚 安藤広重（二世）画）大判 「文久二年十一月」  
藤慶板 落款「応需在翁豊国画」  
氏 光源氏、遠目鏡を持つ女、侍女が描かれている。柳亭種彦作「傍紫田舎源氏」の合巻物が刊行されて後、源氏絵が流行した。この時の挿画をした国貞が、後の三世豊国となる。  
制作年代は、落款から豊国七十七才の時、二世広重は襲名して二年目、文久二年（一八六二）十一月である。

(2)

俳優楽屋影評判  
長谷川貞信（二世）画  
役者絵版画 三枚 大判 明治十七年 大阪 小野豊治郎刊 落款一字ずつ

「貞」「信」

役者中村福助、中村鴈治郎、坂東寿三郎が描かれている。明治十七年届出貞信も「画工長谷川徳太郎」と本名を出している。  
貞信は、嘉永元年（一八四八）生まれ、役者絵を主とし、大阪の芝居画家として番附、看板を描いた。昭和六年没す。

(3)

「お染久松色読販」  
歌川国貞（二世）画  
芝居絵版画 三枚続 大判 慶応三年（一八六七）八月 山甚板  
お染の七役という坂東彦三郎の早替りで当りをとった芝居を題材として入る。久松とおみつを彦三郎、猿回し佐次郎を権十郎と、似顔絵に役者の名前が入る。制作された慶応三年八月江戸・中村座で上演された。  
国貞は、弘化三年（一八四六）二代目を継ぎ一寿斎、梅蝶楼と号した。明治三、四年ごろ四世豊国を襲名、明治十三年（一八八〇）七月五十八才で没す。

(4)

「イギリス風俗版画」  
歌川芳虎画  
浮世絵版画 一枚 大判 「慶応元年（一八六五）」  
西洋婦人三人が港を背景に描かれており、上部に英国についての解説がある。  
芳虎は、歌川国芳の門で、一猛斎、錦朝楼と号し、武者絵に秀でる。役者の大首似顔絵は、三世豊国と並び称された傑作である。横浜絵も描き、こういう文明開化絵を多く描いている。

(5)

「怪気球揚ル図」  
歌川芳虎画  
浮世絵版画 一枚 大判 「慶応元年（一八六五）二月」  
「亜米利加国艦船」

（特殊資料）

（特殊資料）

（特殊資料）

（特殊資料）

之図「三枚続の一枚  
外国の銅版面を見て描いたものという。

(6)

大日本国産之内 養蚕天覧之図

(特殊資料)

錦川版画

三枚続

大判

明治十年

東京

井上茂兵衛刊

落款

瓢箪の中

に「国登志」

皇后の御前で官女養蚕の実際を見せている図。

れ、国利は、三世豊国の門で、梅寿、梅翁と号す。弘化四年（一八四七）生ま

(7)

朝鮮京城之小戦

(特殊資料)

歌川小国政画

二枚続

大判

「明治二十七年」

落款「梅の花」

浮世絵版画 二枚続 大判 「明治二十七年」 落款「梅の花」その後東学党の乱起り、急

(8)

女官洋服裁縫之図

(特殊資料)

橋本周延画

三枚組

大判

明治二十年 東京

林吉蔵刊

洋服裁縫の心得、扱い方が解説されている。

八月生まれ、国周の門で、橋本直義といい、楊洲と号す。天保九年（一八三八）

(9)

「強盗小林政吉捕縛の図」

(特殊資料)

月岡芳年画

錦絵版画 一枚 大判 「明治六、七年」 錦昇堂板 郵便報知新聞五一四  
号付録 落款「大藤芳年」の上に印「芳年」  
明治に入ってからまだ版面は改印の時代で、薄れていて定かではないが、明治  
六年ごろの制作と思われる。また芳年は、大藤という号を使用しているが、  
この号を使いはじめたのも明治六年からである。写真描写を木版面の面で生かす  
ことを企画し、新聞界に浮世絵を進出させた貢献が注目される。明治二十五  
年（一八九二）六月五十四才で没す。歌川国芳門人。

(10)

通俗三国志

白門樓曹操呂布斬図

(特殊資料)

武者絵版画

一枚

大判

「弘化・嘉永頃」

落款

短冊型罫い「国芳画」

・「一勇斎」・桐文 大判 「弘化・嘉永頃」 落款 短冊型罫い「国芳画」

清伝豪傑百人「の揃物を出して、一勇斎、朝桜楼と号し、文政十年ごろ「通俗水

声をあげた。

寛政九年（一七九七）生まれ、文久元年（一八六一）三月六十

五才で没す。